

# 農業女性 活動後押し

## 県信連と松山大ゼミが協働



協働事業書に調印した松山大の芳賀英明准教授(左)と県信連の清家明常務理事—22日午後、松山市道後樋又

千絵代表、7人と、同大経営学部の芳賀英明准教授

(32)「マーケティング論」のゼミが新商品開発などの課題解決に向け県信連と連携して取り組む。

たべとつみんは2015年9月に結成。ゼミの3年生25人が、19年度の研究課題として消費動向や現地調査を行うほか、新商品開発や販売、PR方法を模索。7月下旬の報告会で提案する。22日の調印式では、県信連の清家明常務理事(61)と芳賀准教授が事業書に署

名した。

式後のゼミでは、たべとつみんメンバーがマルシェでの販売や飲食店への納入といった活動を紹介。意見交換で学生から「体験型農業イベントで農産物への関心を高められないか」「若者や子育て世代をターゲットにPRしてみてもは」といった声が上がった。

たべとつみんの加藤代表(41)は「生産者以外と交流が少ないので、将来消費者となる学生の柔らかい発想が楽しみ」と期待。副ゼミ長の堀川菜々香さん(20)は「女性グループという魅力や会員制交流サイト(SNS)などを生かし、今までにない新しいものを提供したい」と話した。(菅亮輔)

学生の若いアイデアを女性農業者の活動促進に生かそうと、県信用農業協同組合連合会(県信連)と松山大経営学部のゼミが協働し事業に取り組み。松山市道後樋又の松山大樋又キャンパスで22日、調印式があった。東予の女性農業者グループ「たべとつみん」(加藤